

東北山行報告

(山 域) 東北
(コ ー ス) 森吉山・白神岳・八幡平・東吾妻山
(登山方法) ハイキング(車中泊)
(山 行 日) 平成 28 年 10 月 19 日(水)~10 月 23 日(日)
(参 加 者) 篠塚 勇 (単独)
(山行報告)

今回は、晩秋の東北の山行と併せて紅葉・温泉を楽しむ予定である。又、時間はあるので全線を一般道で走行しその地域の風景と名所も楽しみたい。

結果としては、東北はもう初冬であり吹雪、強風等でいくつかの山行を断念し、計画を大幅に変更せざるを得ず、山行は満足とはほど遠いが、紅葉は充分楽しめた。

10月18日(火)晴れ

自宅を 4 時 30 分に出発。原発事故の被災地域の現状を見るため、太平洋沿岸に沿って北上する。塩屋崎に寄道し美空ひばりの「みだれ髪」を聞く。原発近接の 3~4 町は国道から脇道へは柵と監視員が配置され、沿道の商業施設や民家は草が生茂っている。避難生活をされている方の心情は察するに余りある。仙台を通過、鳴子温泉峡に寄るが紅葉はまだ色づいていない。湯沢、角館を経由し、道の駅あに(秋田・北秋田市)に 20 時 30 分到着。

10月19日(水)晴れ

(タイム) こめつが山荘登山口 6:40~一の越 7:50~森吉山 9:00 着 9:20 発~一の越 10:20~こめつが山荘登山口 11:20

道の駅あに 5 時 20 分出発、こめつが山荘 6 時 20 分到着。いよいよ最初の山だ。空には雲一つない。登山口を 40 分出発。スキーゲレンデ沿いに進み、落葉ジュウタンのブナ林、滑り歩きにくい岩石の急坂を登り切ると展望の良い一の腰だ。なだらかな山容の森吉山が正面にドンと見える。小さな湿原(夏はお花畑が綺麗だろう)が点々にある木道の稜線を、森吉神社、ロープウェイ分岐と爽快な気持ちで過ぎ避難小屋に着く。ここからなだらかな山腹を 20 分程で山頂だ。熊笹原と所々に成長しない青森トドマツのため展望がすこぶる良く、遠く岩木山、早池峰山、鳥海山、他が望める。下山時、20 人近くが続けて登ってくるので聞くとロープウェイを利用したとのこと。こめつが山荘 11 時 20 分到着。汗は少し離れた「はたはた館いさりび温泉」(男鹿半島に見える木舟型の露天風呂で陽光を浴びウトウトする)で流し、道の駅はちもり(秋田・八峰町)に 16 時到着。

10月20日(木)雨

(タイム) 白神岳登山口 6:10~マテ山分岐 7:30 着 8:00 発~白神岳登山口 9:20

道の駅はちもり 5 時 20 分出発、白神岳駐車場 5 時 40 分到着。天気は霧雨と少し風もある。駐車場 6 時出発、10 分で登山口。ブナ林の落葉乱舞の中 30 分で二股分岐(二股コースは通行止)、更に 20 分で最後の水場だ。ここまではなだらかな登り坂だったが、ここからは滑りやすい急峻な坂を 30 分程でマテ山分岐だ。小休止していたら突然の強い雨と尾根道に出たので風も強くなってきた。頂上付近も雨雲が垂れこめ展望は期待できない。30 分程留まって様子を見たが風雨が治まらない。今回の東北山行はあまり無理せず楽しむ山行と決めていたので、白神山地のブナ森の片鱗を味わうこ

とが出来たので、下山することにした。登山口に9時20分到着。汗流しは一度来たかった黄金崎不老死温泉だ。入浴順序は内風呂で体を洗い温めてから着替えて露天風呂らしい。昼頃なので夕暮れに染まる黄金色とはゆかず、強風のため白波のたつ風呂を早々に出る。道の駅もりた(青森・つがる市)に15時到着。天気予報では明日の津軽地方は15~20mの強風らしい。岩木山の頂上ではそれ以上だろう。夜半からは車が揺れ動く。

10月21日(金)曇り

(タイム) 岩木山・毛無岱(八甲田)中止

今日の予定はまず岩木山だ。15年前はスカイライン終点からの山行で、頂上はガスで視界0だったので、今回は麓の岩木山神社から登り頂上からの眺望を楽しむ予定だ。しかしこの風では無理だ。停滞も考えたが、明日に快復する保障はないので、諦め先に進むことにする。道の駅もりたを5時30分出発。暗雲の垂れこめる岩木山の東側を通過、まず奥入瀬溪流に向かう。十和田湖の子ノ口駐車場に車を止め、8時13分発の路線バスに乗り石ヶ戸で下車。紅葉のピークなので観光客が多い。数々の滝、紅葉のなかの清流を2時間ほどハイクし駐車場に戻る。次は八甲田(晩秋の毛無岱をハイクする)だ。懐かしい酸ヶ湯温泉の千人風呂も楽しみだ。鳶温泉を過ぎたあたりからの道路を覆い被さる密生したブナの黄葉のドームは最高だ。しかし酸ヶ湯の7Km程手前のゲートが閉まっている。「吹雪のため通行止め」の案内板。明日予定の八幡平に行くことにし、来た道を引き返す。十和田湖から秋田へ向う発荷峠展望台から見た八甲田の大岳は冠雪している。鹿角市に入り国道上の電光掲示板が「八幡平は積雪のため通行止め」の表示。今夜は道の駅かづの(秋田・鹿角市)に泊まり様子を見ることにする。15時到着。

10月22日(土)晴れ

(タイム) 八幡平駐車場 8:50~黒谷池 10:10~八幡平頂上 11:20~八幡平駐車場 11:40

前回八幡平に来た時は、ほぼ平坦な歩道を頂上まで往復1時間弱の道のりで物足りなかったもので、今回は茶臼岳を目指す。道の駅かづの5時30分出発。電光掲示板が「八幡平は8時30分開通」の表示。早いゲート手前まで行くことにする。6時30分に蒸ノ湯駐車場に到着。2時間待ちだ。8時45分に八幡平駐車場に到着、すぐに出発。八幡沼を右回りに1~2cmの残雪で滑りやすい木道を往く。沼から10分程の「源太森」頂上からの眺望(岩木山、八甲田山、早池峰山、岩手山、栗駒山、他)が素晴らしい。階段状の坂を下り10時10分に黒谷池に着く。池と草紅葉の草原だ。思っていたよりスケールが小さい。茶臼岳は目の前だが頂上部まで青森トドマツに覆われ展望はないみたいなので引き返すことにする。八幡沼と周辺の草紅葉はスケール感もあり素晴らしい。八幡平頂上展望台から眺望は青森トドマツが邪魔して「源太森」より劣る。八幡平駐車場に11時40分到着。駐車場は休日・好天・紅葉ピークで車は満杯で入場待ちの列だ。立寄り湯が一番近い蒸の湯温泉にする。床を含め総ヒバ造りの内風呂に入る。時間があれば入りたかった野天風呂一帯は蒸気が噴出する大涌谷(箱根)の小型版だ。蒸の湯温泉を13時20分出発。これから月山山麓まで300Km近い大移動だ。途中の341号線は田沢湖付近まで30Km近く、全山紅葉の連続で圧巻だ。計画では銀山温泉の温泉街散策と立寄り湯の予定だったが、時間がないので先を急ぐ。道の駅にしかわ(山形・西川町)に19時30分到着。温泉館も隣接した施設も新しい道の駅だ。

10月23日(日)雨のち曇り

(タイム) 月山中止、鳥子平登山口 12:10～東吾妻山 13:40 着 13:50 発～鳥子平登山口 15:10

月山に 20 年前来た時は弥陀ヶ原ルートからの登頂だったので、今回は姥沢ルートを選ぶ。朝起きたらシトシト雨だ。取り合えず登山口まで行くことにする。道の駅にしかわを 5 時 40 分出発。40 分程で姥沢駐車場に到着。雨も段々強くなり本降りだ。風もかなり強い。樹木のない上部稜線は強風だろう。5 台ほど様子見をしていたが、やがて 1 人が上に向かったが後が続かない。私は無理だと判断し、次の東吾妻山に向う。200Km を超える移動だ。長井市、米沢市を通過し、昔は難所で名高い大峠越えだ。今は立派な国道だ。喜多方市から裏磐梯を通り浄土平に向かうがもう 12 時近い。計画では浄土平から周回する予定だったが、下山時刻を考え最短コースの鳥子平からのピストンにする。鳥子平登山口を 12 時 10 分出発。30 分程ややキツイ坂を登ると景場平の湿原だ。木道を 10 分程進み、シラビソ等の樹林帯を 50 分登れば頂上だ。途中 2 組と擦れ違ったが頂上は誰もいない。ここでも風が強くて展望もきかないので、証拠写真を撮って帰ろうとしたらサートと一瞬でガスが切れ、裏磐梯の湖沼群が見える。最後に天気の様子の罪滅ぼしか。鳥子平に 15 時 10 分到着。携帯電話は圏外なので下山連絡のため浄土平レストハウスに向かう。この時間でも駐車場は 8 割方が埋まっており、吾妻小富士の登山道も列を成している。公衆電話から今回の山行終了の報告をする。予定より 2 日も早いので明日は裏磐梯を散策することにし、引き返す。道の駅裏磐梯(福島・北塩原村)に 18 時 30 分到着。

10月24日(月)晴れ

今夜はシンシンと冷える。朝、車が霜で真白だ。今日はまず近くの日光キスゲで有名な雄国沼に行くことにする。道の駅裏磐梯をユックリ目の 8 時出発。10 分程で雄子沢駐車場に着く。ほぼ水平に近い幅広い遊歩道が沼まで続く。晩秋の静かな紅葉ハイク、何と気持ちのいいことか。沼、展望テラス(金沢峠)、湿原を回り約 3 時間で駐車場に戻る。毘沙門沼(五色沼)も観光客が溢れている。レークラインの三湖パラダイスで写真を撮り、中津川渓谷に向かう。駐車場から渓谷へは 20 分程の下り坂だ。この紅葉も綺麗だが、中津川橋から方がより綺麗だ。13 時 30 分いよいよ帰りだ。猪苗代湖南岸から 294 号線、白河で 4 号線、宇都宮を通過、春日部から 16 号線、渋滞もなく 21 時帰宅。(走行距離 2,000Km)

ダラダラした長文をお付き合い頂き、有難うございました。

以上



森吉山の山頂



奥入瀬溪流



八幡沼の全景



東吾妻山山頂から湖沼群



雄国沼展望テラスから(右方向が湿原)